

# 第112回「移動産学官交流」講演会・交流会

主催：静岡市清水産業・情報プラザ（指定管理者：静岡商工会議所）  
共催：新産業開発振興機構、静岡県農業高等学校校長会

第112回開催のご案内をします。今回は、静岡農業高校を会場に、大学研究者、企業、高校関係者が講演や発表を行います。講演者や発表者等と交流を持ち、今後の企業・食品関係者活動等に活かしてもらえれば幸いです。ご参加よろしくお祈いします。

開催日時	平成30年1月26日(金) 講演会 16:00～17:50 交流会 18:00～19:00
会場	講演会 静岡県立静岡農業高等学校 5階 視聴覚教室 交流会 同上 1階 会議室
研究発表	『植物成長調節物質を活用した新たな土壌改良資材の開発』 静岡県立富岳館高等学校 キノコ研究室
企業発表	『研究者が集まったリバネスによる「科学技術の発展と地球貢献を実現する」仕掛け作り』 株式会社リバネス 教育開発事業部 部長 吉田拓実氏
講演	『自然にかかわる「術」の継承—自然の「恵み」を持続的にするために』 静岡大学 農学部 生物資源科学科 准教授 富田涼都氏
■交流会	静岡農業高等学校食品科学部による食品の試食等

参加料 無料（交流・懇親会参加者は1,000円／軽食・飲物を用意いたします）  
定員 100人  
申込方法 下記申込書にご記入のうえ、FAXかE-mailで申し込み下さい。  
事務局 静岡商工会議所 新産業課（担当：増田、堀川）  
TEL:054-355-5400 FAX:054-352-7817 E-mail: info@siip.jp  
※学校側との積極的な交流を図るためにも、ぜひ交流会までご出席下さい。



申込書にご記入いただいた情報は、静岡商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますことをご了承下さい。

第112回「移動産学官交流」講演会・交流会 参加申込書(会場:静岡県立静岡農業高等学校)  
平成30年1月26日(金)開催 Fax 054-352-7817

事業所名			
参加者名(役職)	( )	( )	
講演会	参加・参加しない	参加・参加しない	
交流会	参加(有料)・参加しない	参加(有料)・参加しない	
所在地		TEL	
※E-mail		※Fax	

※ 欄:今後の『産学官交流会』のご案内を希望される方はご記入願います。  
(原則E-mail案内とさせていただきます。Faxでのご希望の場合は、「Fax欄」のみご記入下さい。)

## 研究発表：『植物成長調節物質を活用した新たな土壌改良資材の開発』

静岡県立富岳館高等学校 キノコ研究班

東日本大震災の津波により東北沿岸は壊滅的な惨状となった。現地では緑化活動が行われているが、海岸堤防で見られる塩・乾燥ストレスが法面のシバの生育を抑制、整備の課題となっている。

私達はキノコ由来の植物成長調節物質「AOH」に着目、植物へのストレス耐性向上効果（塩・乾燥ストレス）について検証し、その効果を認めた（静岡大学農学部生物化学研究室協力）。AOHの活用を検討した。富士山麓は製紙業の町、私達はAOHを含む媒体を製紙の廃材「炭化ペーパーラッジ」とした。私達は、成長効果が高いAOHチップを考案・開発した。製造工程は炭化ペーパーラッジにAOH水溶液を浸漬し、その後、乾燥処理する。AOHチップの機能性を考えた。チップ1gのAOH供給量は $20\mu\text{g}$ 、保水性（チップの空隙率86%）を示す。したがって、AOHチップはAOHを徐々に放出する「先進性に富んだエコ資材」として安定したシバの成長を可能にすることがわかった。その後、AOHチップによる東北沿岸の法面緑化を実施し、成長効果を確認した。

今後はAOHチップ（塩・乾燥ストレス耐性向上効果）を海外の塩害対策（地球温暖化による気候変動で巨大台風が増加→高波で塩害）、乾燥地の緑化（地球温暖化による気候変動→乾燥地の砂漠化の進行）に活用したい。



## 企業発表：『研究者が集まったリバネスによる「科学技術の発展と地球貢献を実現する」仕掛け作り』

株式会社リバネス 教育開発事業部 部長 吉田拓実氏

様々な専門を持つ約60人の研究者が「科学技術の発展と地球貢献を実現する」という理念のもとに集まっている集団。それが私たち株式会社リバネスです。リバネスは2012年に15名の大学院生が学校への出前実験教室をすることから始まりました。実験教室を繰り返すことを通じて培った、サイエンスとテクノロジーを分かりやすく伝える技術を武器に少しずつ事業の幅を広げています。今回の発表では、現在私たちが行っている企業・大学・学校・自治体を巻き込んだ、「教育」「研究」「創業」「人材」の4分野の様々なプロジェクトをご紹介します。



【経歴等】博士（農学）

## 講演：『自然にかかわる「術」の継承—自然の「恵み」を持続的にするために』

静岡大学 農学部 生物資源科学科 准教授 富田涼都氏

私たちの社会を持続可能とするために、どうしたら自然の「恵み」を持続的に受け続けられるのでしょうか。実は単に「自然」があることと、自然の「恵み」があることは同じではありません。技術や技能、文化といった自然にかかわる「術」とその担い手が居るからこそ「恵み」が受け続けられます。このことは、現代の農業、里山保全、鳥獣害などの時代が求める社会的課題と密接に関係しています。また、同様の構図は企業の生産現場、社会福祉、流通などにもあるかもしれません。本講演では、この自然にかかわる「術」に着目して、現代の課題と未来の可能性について考えたいと思います。



【経歴等】

1979年東京都生まれ。専門は環境社会学。2008年東京大学新領域創成科学研究科博士課程修了。博士（環境学）。2010年に静岡大学農学部へ赴任、2015年より現職。大学に「理系」として農学部へ入学するも、「自然そのもの」よりも「人と自然の関係」が大事だと考えて研究室配属の段階で「文転」。自然再生事業における地域社会との関係、持続的な自然資源管理、市民参加型環境調査、在来作物の継承などの研究を行う。著作に『自然再生の環境倫理』（昭和堂・2014年）など。